

変えてみる 買い方食べ方 暮らし方

神奈川県鎌倉市 45 歳
安井 満晴

《作品について》

働き方改革として自身の職場では今年の4月から変形労働時間制に変更になった事を踏まえ、普段の生活習慣を見直すきっかけとなった事。

クラゲかな 海面にうく ゴミぶくろ

神奈川県藤沢市 小学5年
安田 和麒

《作品について》

パイ捨てをすると魚などが食べて自分だけでなく他の人にもおよんでしまうのでやめましょう。なによりゴミぶくろが浮かんでる海はカッコわるい。

フェアトレード 作り手買い手 明日笑顔

高知県高知市 60 歳
矢田 敦之

《作品について》

この川柳には、単なる商品交換にとどまらず、フェアトレードを通して、明日への希望に満ちた笑顔を生み出したい、作り手と買い手の双方にとってよりよい未来を創造してほしいという願いを込めています。貧困や搾取といった負の連鎖から抜け出し、安定した収入を得ることで、教育や医療へのアクセス改善、生活水準の向上など、未来への投資を可能にしてほしい。それは、作り手の明日への笑顔に繋がる第一歩と言えます。伝統的な技術や知識を活かし、それぞれの土地の風土が育んだ素材を用いて、丁寧に商品を生み出しているわけですから、フェアトレードが彼らの努力と技術が正当に評価される場となり、彼らが誇りを持って仕事に取り組めることを望みます。また、「買い手」は、単に商品を購入するだけでなく、その背景にある作り手の物語や、フェアトレードの理念に共感し、倫理的な消費を選択し、満足感と幸福感から明日に向けた笑顔がみえてきます。「明日笑顔」は、フェアトレードが目指す未来像です。作り手と買い手が共に笑顔でいられる社会、公正で持続可能な社会の実現であり、継続的な努力が必要です。私たちにできることで「明日笑顔」が広がればと思って書きました。

お魚が プラスチックを 食べちゃった

神奈川県横浜市 小学4年
楊川 宏羽

《作品について》

この川柳には、魚がプラスチックを食べてしまい、このことが続いていくと絶命してしまうのではないかと思ったからです。世界中から魚がいなくなったら、僕たちは魚を食べることができなくなるし、海に行っても魚たちが泳いでいるのを見ることができなくなります。魚がマイクロプラスチックを食べてしまったら、それをまた僕たちが食べることになって、心配だなと思います。だから、僕はプラスチックゴミを減らしたいです。まずは、納豆のパックなどのプラスチック容器をしっかりと洗って分別して出したいです。納豆を洗った時は、ねばねばして気持ち悪いと思ったけど、こういう努力が海をきれいにすることにつながるなら、がんばりたいです。

温暖化

豪雨は星の

SOS

神奈川県茅ヶ崎市 38 歳
柳 雄太

《作品について》

昨今の異常気象は温暖化によるものだとは認識しており、大雨や豪雨が増えてきている昨今は星からのサインかと感じております。このサインを感じて、一人ひとりがどのように行動していくかが、今後のポイントだと思います。自分のできることは排気ガスやエアコンの調整など小さなところから意識して行動していこうと考えております。

衣替え

いらない服は

リサイクル

神奈川県逗子市 小学5年
柳 侑希

《作品について》

ありがたい 福祉のおかげ 長寿組

静岡県駿東郡清水町 82 歳
柳谷 益弘

《作品について》

地方にもきめ細かな福祉関係の利用施設があり安心できる。

海の中 海藻守ろう 大切に

東京都千代田区 小学5年
山内 雅史

《作品について》

ヨットに乗って自分の目で海を見て、きれいな海を続けていかないといけないと思った。

海にはね 生き物がいる ゴミすてない

神奈川県逗子市 小学5年
山口 亜里紗

《作品について》

地球に オーバー痛リ ズムやめて

青森県つがる市 68 歳
山口 和也

《作品について》
ヒート地球?現象。

街のゴミ 流れ流れて 海の果て

神奈川県川崎市 55 歳
山崎 崇

《作品について》

街と海はつながっている、海を守るにはまず住んでいる街から。

生き物は こまっっているよ 食べものに

東京都世田谷区 小学2年
山下 瑤生

《作品について》

いつまでも動物が生きていられる世界であってほしいと思いました。

賄うの 事務所の備品 出た五味で

神奈川県鎌倉市 64 歳
山添 智子

《作品について》

使えるものは無駄にせず使っていこうという姿勢を高らかに謳いました。

節電は まさかの停電 防ぐエネ

大阪府堺市 49 歳
山野 大輔

《作品について》

待機電力など無駄な電力が温暖化を招き、ひいては予期せぬ台風を招き停電になる。こまめに電気を消すエネルギー(労力)は惜しまない。

残りもの 誰かのための 出番待ち

東京都板橋区 43 歳
山本 佑治

《作品について》

世の中には1つの商品、作品などを完成させるにあたり、余分に沢山残ってしまうものや余ってしまうものがあります。食材であれば、その時のレシピでは使いきれなかった食材の一部や洋服であれば、出来上がった衣装には使えなかった生地之余りなど。必ずといって良いほど、1つの物を完成させるにあたり、用意した材料をすべて使いきるということはないのではないのでしょうか。人がその時に使用しなかった物を「残りもの」「残り物」「使わない部分」と決めて廃棄してしまうとただのゴミになってしまいますが、残った物を上手く使ったり、再利用する事で誰かに必要とされる物になるかもしれません。どんな物でも大切に使い切ると言う事が大事だと思いますし、扱う「人」の考え方と行動次第でただ捨てられてしまうゴミになってしまうのか、何かに生まれ変わるのか大きな違いです。世の中に無駄なものなど何一つなく、使い方や考え方1つで未来は変わるということをこの川柳で表現しました。

プララベル 分別すれば みな笑顔

神奈川県藤沢市 小学5年
柚木 心夏

《作品について》

プララベルを分別しないことで、色々な事に繋がってしまう。しかも、もしプララベルが付いたペットボトルが海に流れ着いてしまったら、プララベルで被害に合う魚もいるかもしれない。だから、プララベルを分別してほしい。

アマモ場が のぞける海に もどそうよ

神奈川県横須賀市 47 歳
横川 哲

《作品について》

昔は海辺にはアマモがあり魚たちの隠れ家になっていた。アマモにゆられて育つ小魚や貝、昼寝をしている魚達がかっこよかった。そんな海を未来に子供たちに見せたい。豊かな海にもどしたい気持ちを込めました。

温暖化 地球が燃える 対策を

神奈川県横浜市 小学4年
横田 朝光

《作品について》

僕がこの川柳を作った理由は、テレビなどで地球が温暖化により、さまざまな影響が出ていると知りました。そのため、SDGs13の気候変動を選びました。地球温暖化がこのまま進むと、異常気象が各地で起こります。そうすると、世界のさまざまな都市や自然環境にも影響が出てきます。日本でも、台風がたくさん発生したり、非常にゆっくりな速度の台風が来たりすると、直撃した地域の方は、多大な被害を受けることになります。台風が直撃しなくても、周りの地域でも大雨になるなど大きな影響があります。日本は、地震だけでも怖いのに、そこにこのような大雨が来ると、被害が倍になってしまいます。だから、気候変動の対策を考えて実行しないといけないと思います。このままだと地球は限界を迎えてしまいます。

バイキング 盛りすぎやめる いしきして

神奈川県横須賀市 58 歳
横田 幸一

《作品について》

バイキングで食事をするとうちを取ろうと食べ過ぎになり、そして色々食べ残しをした経験があります。自分で量を決めるバイキングこそ、つくる責任つかう責任を実行できると思いこの川柳にしました。

まだいける ばだばだやれる 道半ば

東京都練馬区 56 歳
横塚 誠

《作品について》

業界全体が好調を維持するなか、ポートピアの貢献率が低迷し続けており、マインド維持に神経をすり減らす毎日ではあるが、会社を守ることがスタッフを守り、自分自身、家族を守ることに繋がると考え、まだまだいける。やれる事は山積している。そんな強い信念を持ち続け、1日1繕を繰り返し、スピードよりもチーム歩調を意識した歩みを止めない会社であり、自分自身の人生でありたいと願う。

一人称 英語にすると 全部「I」

東京都墨田区 高校 2 年
横山 琴子

《作品について》

日本語には数多くの一人称が存在しますが、日常生活で使える一人称はとても限られているように僕は感じます。男の子は「僕」か「俺」、女の子は「私(わたし／わたくし)」を使うことが”正しい”と思っている人もまだ多いのではないのでしょうか。僕は基本「俺」か「僕」でたまに「私(わたし／わたくし)」を使います。丁寧な言葉遣いを求められる場以外は一人称だけでなく口調も完全にランダムです。僕はそれが 1 番僕らしい状態であると思っているのでずっとこの状態で過ごしてきました。先生に「お前一人称俺なのか」と言われて傷ついたこともあります。ここまで気にされている一人称ですが英訳するとなんとびっくり、全部「I」です。フランス語やスペイン語も一人称は 1 つだけで、男女での一人称のルールも一切存在しません。公式の手紙や目上の方へのメールなど、その時々求められる丁寧さというものは確かに存在します。でも、それ以外のタイミングでは自分の使いたい一人称や口調を使ってみるのもありではないのでしょうか。誰かに望まれる自分よりも、自分が最も好きになれる自分へ。あなたが気にしているよりも、世界は広くて楽しいかもしれませんよ。

ビーチクリーン

活動継続

広がる輪

神奈川県横須賀市 36 歳

吉田 亜紀子

《作品について》

ビーチクリーン活動を通して、一般の方のご参加だったり、その取り組みの輪が段々と広がっていることを感じています。良いことをして海や海で生きる仲間たちを守れるって素晴らしいことです。ずっと取り組んでいることが特別なことではなく、生活の一部になっていくことや楽しみながら活動できることも込めてこの川柳といたしました。実際私も、朝から波の音を聞きながら良い取り組みに参加でき、参加した際の楽しみになっております。

脱炭素

ペロブスカイト

太陽光

東京都北区 61 歳

吉田 勝彦

《作品について》

ペロブスカイト太陽光発電は、これから、普及すると、思われる、再エネ利用発電です。建築にも、取り入れられる、クリーンな、エネルギー取得法です。時代は、エレクトリック・ユース。

「これ欲しい！」
それってほんとに
いますか？

鹿児島県鹿児島市 中学 1 年
芳田 希音

《作品について》

私たちにとって身近な百均で何気なく手に取っているその商品。それって、本当に必要か、買う前に改めて考えて欲しいし、「100 円だからいいや」「半額だから」は未来では通用しないのでは？と思ったからです。

カラフルな マイクロチップ 海のゴミ

神奈川県逗子市 53 歳
吉田 宏実

《作品について》

ビーチクリーンに参加させて頂き、鋭利なマイクロチップが沢山落ちているのを目の当たりにしました。そのゴミを少しでもなくしていきたいという思いでこの川柳を作りました。

ポイ捨てで 君も歩けば ゴミあたる

神奈川県藤沢市 小学5年
芳谷 和奏

《作品について》

このままずっとポイ捨てをしていると、犬が棒にあたるように、どこにいてもゴミばかりのまちになってしまう。そんなまちにならないように、自分のまちがずっと住み続けられる場所であってほしい。このようなきもちを日本の小学生みんなが持つことになれば、きっと日本は変わるだろう。つくる側は無駄に作らない。使う側は最後まで責任を持って大切にすることを心がける。

守らねば 小鳥のさえずり ちゅんちゅちゅん

神奈川県横浜市 21 歳
吉村 尋

《作品について》

都内でも小鳥のさえずりが聞こえるくらい環境を守っていきたいなという思いです。